毎日歌壇

加藤 治郎 選

抱っこするわれに四つは顔あげてしんでもときどきあそびにきてね　東京　青木　公正

〈評〉4歳児の言葉を下句に写した。おじいちゃんは死後の世界に行ってもいつでも遊びに来てくれる。天真らんまんな思いだ。

さみどりの町に降りくるチョコレートいちまいいちまいせつないせつない　垂水市　岩元　秀人

〈評〉夢のスケッチのようで楽しい。板チョコだろう。音のリフレインが美しい。

友情はよろめくほどに美しく、生まれ変わったように疲れる　西宮市　荒川　裕香

高すぎる天井を見ても高すぎる天井を見ても開く我の口　横浜市　友常　甘酢

人混みで疲れた日には弾いているブルグミュラーの「やさしい花」を　東京　吉川　黎

我ひとり渋谷五差路にこつぜんと居なくなっても五差路は五差路　東京　新美喜代男

綿飴を買おう二人で来た今日をいつか忘れる儀式のために　大津市　世田　夏雪

恋だった　確かにあの日てのひらにあなたが書いてくれたあの字は　岐阜市　山上　秋恵

こんなにもかるく雪が降りだせばめがねを拭いてるバスターミナル　大野城市　野分　のわ

ひふみんの天の旅路を嘆くごとまた棒銀の銀が泣き出す　東京　いなやまひろし

水原 紫苑 選

竜の首に逆さに生えている鱗あなたに触れるここがその場所　名古屋市　昼　河

〈評〉1枚だけ逆さにうろこが生えている竜という生きものは、実はあなた、そしてわたし。

階段　とおもえばそれは背の骨でうつくしさという自覚のかたち　東京　境　千尋

〈評〉それは本当に階段なのかもしれない。うつくしさとはたぶん心の階段。

パイナップルの冠捨てて切り分ける　王国のなき裸のわたし　安城市　唐澤　うに

突然に飛行機雲が折れ曲がる新たな夢を見つけたように　倉敷市　中路　修平

舟に住むようにさびしい明け方に百合を描くおそらく生きるために　横浜市　永永　キヌ

まひるまはとはに春なる鳩といふ鳩のちひさく鳴くをききたり　東京　吉岡　耕大

青は善き人のたましいのいろまたひとり海辺の街に置いていかれる　宮古島市　塩見　佯

なぜひとは春をよろこび愛でるのか　花の刃は脆くこぼれて　町田市　古井　朔

シューマンになれなかった過去いつの日かトロイ遺跡のように愛でたい　千葉市　深海　泰史

寒かったはづ辛かったはづ寂しかったはづでありしが無感覚の冬　甲府市　村田　一広

伊藤 一彦 選

美しい星なのに願いごとばかり通りすがりの星がおどろく　東京　富見井高志

〈評〉発想がユニークで、風刺もきいた印象作。流れ星を擬人化している。見かけは美しくても戦争の続く地球への嘆きの歌だ。

老夫婦の家の雪かき終えてから我が家にかかる土日の朝は　金沢市　竹内　一二

〈評〉淡々と歌ってすがすがしい。下の句の倒置は技巧というより作者の人柄だろう。

果樹つくる友は枝ぶり見定めてすまぬと樹をなで鋸を引く　山形市　佐藤　紀之

水仙がこくんと小首かたむけて眺めるわれに「寒くないかい」　池田市　黒木　淳子

ホウボウのように呆けた顔のままふたり並んでただ湯に浸かる　戸田市　水沢わさび

マッチングアプリで結婚した友の美男美女なる理想の写真　札幌市　住吉和歌子

退出したライン仲間が戻って来うす暗い日に灯火ともる　横浜市　吉村　一

戦争は見ざる言わざる聞かざるにしても否定は出来ず近づく　筑紫野市　二宮　正博

枯れてなお葉先に棘を潜め持ち何守れるか立ち居のアザミ　伊勢崎市　保坂　幸利

絶対に徘徊老人ではないと覚悟を持って聞く駅の場所　松戸市　小林　里純

米川千嘉子 選

認知症克服された未来から見たらペストの如く怖いか　広島市　堀　眞希

〈評〉さまざまな病気が克服されてきたが認知症はどうか。ペストと認知症は同じだろうか。作者も読者もさまざまに思う。

加齢臭おのれはさほど気にならず人はおのれを嫌はぬものを　名古屋市　浅井　克宏

〈評〉こちらも高齢者の大関心事だが、テーマは下句に。アイロニカルで苦い。

八本の採血後は腹空きて食べ物広げてピクニックのやう　幸手市　中村　早苗

再婚の話を断ちて祖母は生き戦後の庭に花を植えつぐ　所沢市　里見　脩一

砂糖漬けされた言葉を掛けられて2回転して振り落としたり　三重　中山由賀子

つきたくもない嘘をつき夕暮れが僕の上着を真っ赤に焼いた　福岡市　西田　浩之

もういない人を探しているのだろあなたの代わりいないんだよと　北九州市　植田　文隆

休日に開くマンション総会も働き盛りは姿を見せず　東京　佐藤　一郎

寒のりを岩に摘みたる浜人ら共に声かけ高波避ける　鶴岡市　大沼　葉子

除雪車の道をはずれて五メートルそのポストまでごぼごぼごぼと　京丹後市　山副美佐子

投稿規定　はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051（住所不要）毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生（希望選者名）係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム（https://mainichi.jp/kadan-haidan/）でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます

おことわり　次回は17日に掲載します。